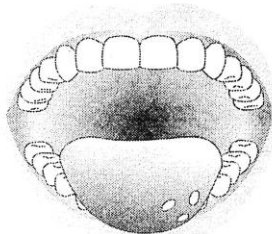


「舌にもがん」忘れずに

こんな症状に注意

よくある症状

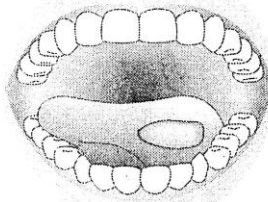
- 直径2~10ミリの白く丸いくぼみができ、しみる。1~2週間で自然に治る
→口内炎(アフタ)



口内炎の例

注意すべき症状

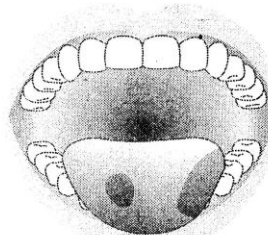
- 舌の側面や裏側に腫瘍(しゅよう)ができてしみる。口内炎だと思っていたが、2-3週間たっても治らない
→舌がんの疑い
- 舌に白い斑状の腫瘍ができたり、赤くただれたりする
→舌がんの「前がん病変」の疑い
- 口の粘膜全体に粉ミルクのかすのようなものが付き、ピリピリ痛む
→「カンジダ症」の疑い



舌がんの例

あまり心配しなくてもよい症状

- 舌の粘膜に何も病変がないのに舌がピリピリ痛んだり、熱を持った感じがする
→「舌痛症」
- 舌の表面の模様がまだらになる
→「地図状舌」
- 舌の表面に溝ができる
→「溝状舌」

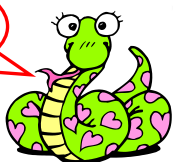


地図状舌の例

(大鶴洋医長の話をもとに作成)

清潔保つ努力を
舌(ぜったい)は、舌の表面にあるヒゲのような組織が伸びて発生する。この組織が長く伸び、黒く着色したものを「黒毛舌」と呼ぶ。喫煙量が多かったり、抗生物質を飲んだりするとかなりやすい。
舌の表面の模様がまだらになる「地図状舌」に対しては「特に治療法はなく、放置しておいてもいい異常もある」との姿勢だ。歯磨きやうがいをしっかりして、日ごから口の中の清潔を保ち、注意を払うこと

日本経済新聞より



は大切だ。大鶴医長は「がんにつながるような異常ではないかと疑いを抱いた時は、早めに歯科か耳鼻咽喉科に行ってほしい」と話している。



「舌がんは舌の側面から裏側にできやすい」と話す大鶴洋医長(東京都目黒区)

「舌は普段は病気に気づいてそれほど心配しない場所だ。ただ、舌にはがんがあることだけは知っておいてほしい」。独立行政法人国立病院機構東京医療センター(東京都目黒区)の大鶴洋歯科口腔(こうくう)外科医長はまず、舌の病変の重さが、がんとそれ以外とで大きく違うことを指摘した。

1~2週で軽く大鶴医長によると、舌の代表的な病変は口内炎だ。中でも直径2~10ミリの丸く白っぽいところが残る。

「舌は普段は病気に気づいてそれほど心配しない場所だ。ただ、舌にはがんがあることだけは知っておいてほしい」。独立行政法人国立病院機構東京医療センター(東京都目黒区)の大鶴洋歯科口腔(こうくう)外科医長はまず、舌の病変の重さが、がんとそれ以外とで大きく違うことを指摘した。

「舌は普段は病気に気づいてそれほど心配しない場所だ。ただ、舌にはがんがあることだけは知っておいてほしい」。独立行政法人国立病院機構東京医療センター(東京都目黒区)の大鶴洋歯科口腔(こうくう)外科医長はまず、舌の病変の重さが、がんとそれ以外とで大きく違うことを指摘した。

治りにくい炎症注意

「舌は普段は病気に気づいてそれほど心配しない場所だ。ただ、舌にはがんがあることだけは知っておいてほしい」。独立行政法人国立病院機構東京医療センター(東京都目黒区)の大鶴洋歯科口腔(こうくう)外科医長はまず、舌の病変の重さが、がんとそれ以外とで大きく違うことを指摘した。

「舌は普段は病気に気づいてそれほど心配しない場所だ。ただ、舌にはがんがあることだけは知っておいてほしい」。独立行政法人国立病院機構東京医療センター(東京都目黒区)の大鶴洋歯科口腔(こうくう)外科医長はまず、舌の病変の重さが、がんとそれ以外とで大きく違うことを指摘した。

喜ばれることに喜びを...

小室歯科

■ 天王寺診療所 Tel: 06-6779-7082
■ 難波診療所 Tel: 06-6644-5661
■ 天王寺ミオ診療所 Tel: 06-6770-1182
■ 関西国際空港エアロプラザ診療所 Tel: 072-456-8601